

# おおくま

福島県大熊町  
議会だより

2023

令和5年  
11月1日発行

No.67

題 字：鈴木 真理さん（下野上）



学び舎ゆめの森 スポーツフェスティバル

9月  
定例会

令和4年度決算認定..... ③

ふるさと帰還通行カード..... ⑥

町政を問う 一般質問..... ⑦

サークル紹介 Best Buddies Okuma..... ⑫



スマートフォン  
でも見られます

## 37議案を議決

## 定例会のあらまし

令和5年第3回定例会は9月7日から15日までの9日間で開催されました。

第1日目に町長より条例改正工事請負、備品購入契約、教育委員会委員の任命、人権擁護委員の推薦、令和4年度一般会計および特別会計決算認定、令和5年度一般会計および特別会計補正予算など34議案が提案されました。

第2日目は5人が一般質問を行い、復興の課題や新たな町づくりの提案などを取り上げ、町民第一主義の視点から熱く町政をただしました。

第3日目からは全員協議会にて議案を審議しました。

第8日目の本会議では条例や契約、人事案件のほか令和4年度一般会計および特別会計決算認定など24議案を審議し、全議案とも原案通り可決しました。

最終日の本会議では令和5年度一般会計および特別会計補正予算など10議案と、追加提案された工事請負契約2件など併せて審議し、全議案とも原案通り可決し閉会しました。

なお、今回の傍聴者は延べ20人でした。

## 令和4年度実施した主な事業

## 復興拠点整備事業



復興拠点の整備を進めるため、下野上地区一団地の市街地形成施設事業業務委託などを実施しました。

12億  
6742  
万円

## スマートコミュニティ整備事業



9億  
1003  
万円

大熊中学校跡地にメガソーラー、大型蓄電池等を導入してスマートコミュニティ事業の整備を進めるため、業務委託および整備工事に着手しました。

## 教育施設整備事業



『学び舎ゆめの森』の開校に向け、教育施設の建設が着々と進められました。

9億  
4163  
万円

## 再生賃貸住宅整備促進事業



2億  
6371  
万円

『学び舎ゆめの森』に通学するため、新たに子育て世帯用の再生賃貸住宅を整備しました。

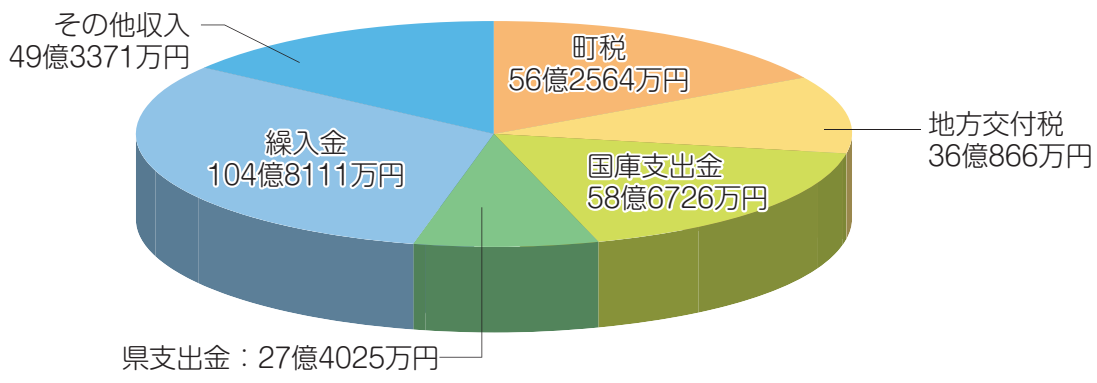
(万円未満四捨五入)

# 令和4年度決算認定 一般会計支出総額241億円

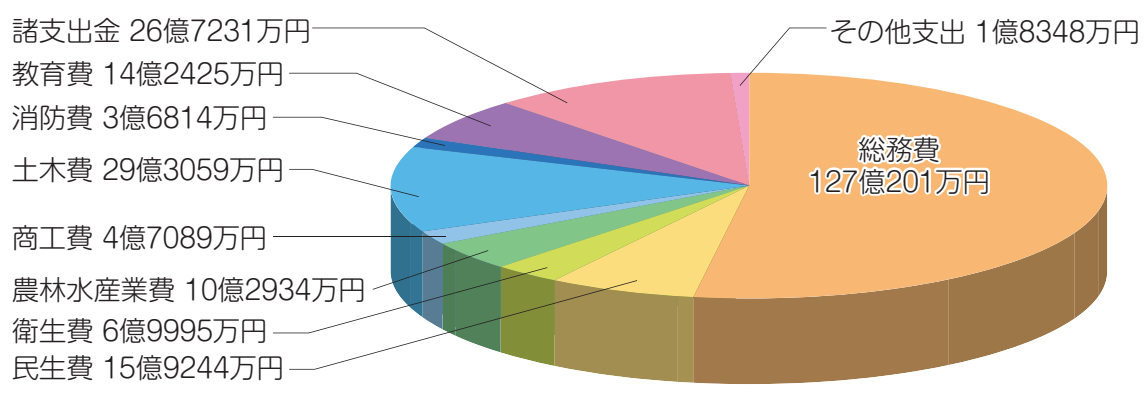
一般会計の支出総額は、下野上地区復興拠点整備、スマートコミュニティ整備事業、再生賃貸住宅整備促進事業、教育施設整備事業などを柱とした、大熊町再生に向けた240億7340万円の決算となりました。主な内訳を報告します。

特別会計では、避難指示解除による下水道整備事業の支出が増額となりました。また国民健康保険に19億4910万円、介護保険事業に11億2380万円などの支出があり、特別会計についても審議の結果、全議案とも原案通り認定されました。

## 収入（歳入） 決算合計額：332億5663万円



## 支出（歳出） 決算合計額：240億7340万円



## 特別会計支出 決算合計額：55億5082万円

会計名	収入総額	支出総額	会計名	収入総額	支出総額
坂下ダム施設管理	7602万円	5945万円	住宅団地造成	1万円	0万円
国民健康保険	20億3311万円	19億4910万円	工業団地造成	19億8119万円	8億4710万円
奨学金貸与	1141万円	1094万円	介護保険・サービス事業	11億9156万円	11億2380万円
特定環境公共下水道	13億1486万円	8億7651万円	後期高齢者医療	2760万円	2710万円
農業集落排水	6億5122万円	6億4967万円	中央台・やすらぎ霊園	1447万円	715万円

(万円未満四捨五入)

# 自宅を新築した場合 補助金は重複して受給できるのか



補助金を活用したマイホーム

第3回定例会にて令和4年度決算等の審議を行いました。  
その中から主な質疑内容を報告します。

## ゼロカーボン推進補助

**問** 町内に自宅を新築した場合、住宅取得等支援事業補助金が補助されるが、ゼロカーボン推進補助金についても合わせて受給することは可能なのか。

**答** ゼロカーボン推進補助金については、再生可能エネルギー設備等条件が合えば重複して受給は可能である。

とは可能なのか。

また、補助金申請件

数は何件あったのか。

**答** ゼロカーボン推進

補助金については、再

生可能エネルギー設備

等条件が合えば重複し

て受給は可能である。

補助金申請件数は全

体で16件あり、内訳は

省エネルギー補助

14件、太陽光・蓄電池

設置補助1件、緑化・

環境改善補助1件であ

る。

## 地区集会施設設置 条例改正

**問** 町が管理する集会所を解体した際に、使用していた行政区の備品はどうしたのか。

**答** 各行政区長と協議

して残すべき備品は町

内の公共施設に保管し

ている。

## 防犯カメラ設置補助

**問** 家庭用防犯カメラ

の設置補助は住宅以外

は適用にならないのか。

**答** 住宅解体後に残った

倉庫も対象としてい

る。

## 敷地内モニタリング調査

**問** 避難指示を解除した

区域の敷地のモニタ

リング件数とフォロー

アップ除染の件数は何

件か。

**答** 敷地内モニタリン

グ件数は21件でフォロ

ーアップ除染が必要な

敷地はなかった。

## 町内巡回バス

**問** 大野駅、富岡駅から

役場への便数は1日

何便なのか。令和4年

度の利用客数は。また

1日の平均利用客数は

何名か。

**答** 大野駅から10便／

日、富岡駅から8便／

日を運行している。令

和4年度の利用客数は

延べ4568名、1日

の平均利用客は13名と

なっている。

## 民間アパート リフォーム補助

**問** 補助の申請件数は

何件か。

**答** 申請件数は19件、

125戸分の補助を行

った。

## インキュベーション施設

**問** 現在インキュベー

ションセンターに入居

している企業は何社か。

**答** インキュベーション

センターの貸事務所

には、次世代グリーン

CO<sub>2</sub>燃料技術研究等

8社とシェアオフィス

にはサービス業40社の

専門技術を提供する企

業42社等合わせて82社

が登録している。

# 効率的な財政運営に努めるべき

監査委員より、決算および基金運用状況などの意見書が提出されました。主な内容を報告します。

令和4年度末現在、財政調整基金が約101億6429万円、その他目的基金約963億3448万円と潤沢な財源を抱えながら、健全な財政運営を進めていると言える。

一般会計の不用額については、前年度に比べて増額となっており、精査可能と思われる不用額も散見された。改めて職員一人ひとりが基礎・基本を意識し、適正かつ的確な予算編成・執行に努めることを求める。

各種補助金に関しては、被補助団体が団体運営や事業展開で補助金に依存しないよう、経理等の透明性、事業の公正性に一層努められることを望む。

当町は、震災以前からの極めて有利な財務体質を維持しているが、状況はその都度変化しており、復興へ向けた計画的かつ有効な財源の活用が求められている。

今後引き続き費用対効果を検証する中で経費削減を図り、効率的な財政運営に努められることを期待し意見とする。

第3回定例会にて工事請負契約3件を可決しました。主な内容をお知らせします。

●大熊インキュベーションセンターグラウンド整備工事  
5億1040万円

インキュベーションセンターに隣接するグラウンドを整備するものです。

●新溜地区ため池災害復旧工事  
1億9250万円  
●小塚地区ため池災害復旧工事  
1億1550万円

東日本大震災により被災したため池の復旧工事です。

主な工事内容は、崩落または沈下部分の掘削および再築等です。



復旧が必要な堤体

## 教育委員

教育委員の任命について全会一致で同意しました。

仲野 良太さんを新任



【住所】熊字旭台  
【任期】令和5年10月1日～

## 人権擁護委員

人権擁護委員の推薦に全会一致で同意しました。

任期は令和6年1月1日～

石橋 裕子さんを再任

【住所】熊字滑津

宇佐見 忠さんを再任

【住所】熊川字久麻川

植杉 文子さんを再任

【住所】熊字新町

## 工事請負契約

## 人事

# ふるさと帰還通行カード 審査業務を延長

第3回定例会にて令和5年度補正予算の審議を行いました。  
その中から主な質疑内容を報告します。

## ふるさと帰還通行カード

**問** 受付審査業務費を増額した理由は何か。

また、現在までの申請件数は何件か。

**答** 当初10月までとしていたが周知不足などを考慮し審査業務の委

託期間を延長するため。

これまでの申請件数は6688件、審査済み件数は5546件となっている。

## 墓地整備工事

**問** 大川原地区の墓地の立木伐採費用が計上



適正に利用してね

されたが、他の地区でも適用になるのか。

## 消火栓修繕

**問** どの地区の消火栓を修繕するのか。

**答** 避難指示が解除された地区の消火栓・防火水槽を修繕する。

## 消防水利管理

**問** どの地区の消防水利を管理するのか。

**答** 避難指示が解除された区域の消防水利を管理する。

## 復興拠点用地取得

**問** 用地取得の予算計上があったがどのエリアなのか。用地取得後の使用目的は。

**答** 下野上一団地事業での大野駅西エリア南

側境界線、大野南住宅団地、中央産業団地、原住宅団地の外周土地を対象として道路、水路等の改修工事を予定している。

## 道路新設改良事業

**問** 町道東67号線改良事業で移転補償料が計上されたが場所はどこなのか。

**答** 錦台地区の立木補償と熊町地区国道6号の電柱移転補償費である。

## 森林クラウドシステム導入

**問** 森林現況調査委託に替わり、森林クラウドシステムを導入する目的はなにか。

**答** 令和6年度から県の補助事業「ふくしま森林再生事業」を活用し、民有林の森林整備

等を実施していく考えである。

この事業は、森林整備の他、路網整備、放射性物質流出防止柵の設置等が補助対象である。

このため当該事業を活用した方がメリット

が大きいと判断し、森林現況調査は見送り、県の森林クラウドへ接続するシステム導入費用である。

## こども計画ニース調査

**問** この調査を実施する理由は何か。

**答** 国のこども大綱の制定に基づき町は令和6年度に「こども計画」を策定する。

計画策定には子ども保護者等の意見を反映させるため、今年度は「こどもからの意見聴取」を実施する調査費である。

带状疱疹

## 問 ワクチン接種への補助を

## 答 早ければ来年度から実施



島原健二郎 議員

# 町政を問う 復興への課題をとらえて

**島原** 町民の健康維持特に高齢者への健康づくりの推進を図るために町は必要な支援を行い、手を差し伸べるべきである。

**町長** 带状疱疹は80歳までに3人に1人が罹患すると言われており激痛も続く、とても辛い病気であると認識している。

一部の町村においても助成を行っている。ワクチン接種はウイルスに対する免疫力を

高め病気の発症や重症化を抑える有効な手段であるため、接種費用の助成を前向きに検討

し、早ければ来年度から実施したいと考えている。

日本人成人の90%以上は带状疱疹ウイルスが体内に潜伏しているが、抗体も有している。免疫は年齢とともに弱まり、特に50歳を超えると带状疱疹を発症するリスクが高くなるため、50歳時にワクチン接種を奨励し補助をすべきである。

発症を予防するワクチンは任意接種となっており、50歳以上の方の接種が認められている。

**島原** 肺炎は日本人の死因第5位である主要な疾患だ。現在65歳で実施しているニューモバックス（PPSV23）は日本

維持を図り補助をすべきである。町長の考えを伺う。

として、再度接種することが可能である。国においては効果の持続期間や再接種の対象者に関するデータがまだ少ないとしており町独自の接種費用助成については、慎重に検討する必要があると考えている。

またワクチンには生ワクチンと不活化ワクチンの二種類があり抗体期間が異なるため、それぞれのワクチンの抗体期間に適した定期接種を実施し補助をすべきである。

接種費用は、生ワクチンが1回8千円程度より予防効果の高い不活化ワクチンは1回2万円程度で、2回接種することが必要で自己負担額は4万円とかなり高額となっている。現在国において定期接種化の議論がされている段階ではあるが、全国的に接種費用を助成している自治体も増えてきており、県内の

そのため公費負担で実施している65歳でのワクチン接種を町独自に70歳以降5年間隔で実施し、高齢者の健康

は、心臓や腎臓などの機能に障害がある方等が対象となっている。前回の接種5年以上の間隔を空ければ任意

## 問 2回目以降も公費負担で実施を 答 接種費用助成は慎重に検討

肺炎球菌

武内 正則 議員



## 問 大熊IC付近に設置すべき

## 答 運用も考慮し検討する

防災拠点

**武内** 東日本大震災と原発災害で全町避難を経験し12年が経過した。原発廃炉までの道のりは長く、その間、地震と原子力の複合災害が危惧される。

そして、毎年のように全国各地で温暖化による大雨や河川の氾濫が発生し、甚大な被害を及ぼしている。

町の復興計画案に防災機能の確保として、復興再生拠点内に防災拠点などを整備し、各種公共施設には備蓄倉庫などの設置を検討している。

そこで、防災拠点の設置場所を大熊IC付近にすべきと考える。

理由として、現在進めている大野駅周辺の町づくりと大野南、原地区の住宅地からアクセスが良いこと。

さらに常磐自動車道の長時間通行規制で県

道35号国道288号線が代替え通行になった際にも対応できる。

それに併せ、地震や複合災害を想定した放射線防護施設とヘリポートを含めた防災拠点にすべきだと考える。

**町長** 東日本大震災と原発事故による全町避難は生活を一変させ、災害の恐ろしさを痛感した。

また、自然災害や大規模な地震など全国各地で多発している。町には帰還者や移住者も



有事に備えて

少しずつ増え住宅整備も進んでいる。現状から防災拠点の整備は必要である。

整備の場所について現在進めている町づくりや常磐自動車道、国道6号、県道35号線な

### 復興支援員

## 問 コミュニティ形成に配置すべき 答 伴走支援を検討していく

どの主要幹線とのアクセスを考慮し、町有地の活用と土地の新規取得の両面から検討していく。

また、町内にはドクターヘリの離着陸場が福島第一原子力発電所

ヘリポートのみであり発電所以外での運用が難しい。このことからヘリポートの設置を含め施設の内容、規模について防災面以外の運用も考慮して検討を進める。

**武内** 町は現在、分譲宅地と再生賃貸住宅の整備を下野上地区の大野南、原で進めている。

宅地分譲は令和6年3月に竣工した後公募が始まり、再生賃貸住宅は2月から入居者を募集し4月から入居できる予定だ。同時に集会所もできる。

住民のコミュニティ形成や自治会活動をしやすいするため、自治会への入会を入居条件

とする。同時に集会所もできる。

にしてはどうか。

今年度、復興支援事業として6名の採用が予定されている。その

内まちづくり公社に配属予定の支援員を軌道にのるまで大野南、原住宅のコミュニティづくりの支援のため配置すべきと考える。

**町長** 各住宅エリアには帰還者や移住者が居住することになるが安全、安心で暮らしやす

い生活環境を作り上げるためには地域の見守りや支え合い、孤立化防止の観点からもコミュニティの醸成や自治活動の促進が重要と認識している。

コミュニティ形成や自治会活動が定着するまで時間を要することから、復興支援員を活用した伴走支援について検討していく。



西山 英壽 議員



## 問 支援策の特設ページ新設を

## 答 さらに充実を図っていく

子ども、子育て支援

**西山** 子育て世帯の方々は各自治体でどのような支援策があるのか興味、関心が高いのではと考える。

そこでホームページ上に、子ども、子育て支援策の特設ページ新設を提案する。

特設ページで支援策を一元化して掲載し、年代別での紹介にする等、子育て世帯に寄り添い、知りたい情報が瞬時に得られるようにし、今まで以上にわかりやすく発信すべきと思う。

**町長** 帰還促進、新規移住に繋げるためにも子育て関連だけでなく、そのために必要な情報をわかりやすく発信できるように、ホームページ全体のさらなる充実を図ってまいりたいと考えている。

### 町子ども計画

## 問 早期策定できるように準備を

## 答 策定に向け準備を進める

**西山** 子ども計画を策定、実施、評価するには、対象となる子ども保護者等関係者の意見を反映させることと定められている。

早期に策定して子ども達への様々な施策が展開できるよう、子ども、保護者等関係者と繋がりを構築することから準備を進めるよう提案する。

町の全ての子ども達が幸福で健全な生活を送ることができ、町の実現を目指し町子ども計画策定に向けての準備をすべきと思う。



多くの子ども達とつながりを

**町長** 今年度中に子ども計画策定の二一三調査を実施するため、今回の補正にて予算を計上した。

今後は、子育て世帯への二一三調査の結果や子ども、若者の意見をしっかりと受け止め次年度の大熊町子ども計画策定に向けての準備を進めていく。

### 大熊町教育大綱

## 問 現在までの実施の点検を

## 答 第三者委員会を立ち上げる

**西山** 現在までに町教育大綱の基本目標および具体的な方策の実施成果の有無、どこに、なぜ対応できなかったのかなどを、点検することを提案する。

点検することで、未対応の箇所や残期間でどこに、どれだけできるかも確認でき、早期に着手できると思う。対象期間内についで多く全町民への施策を実施すべきである。

実行性のある町民のための大綱を制定し、一人一人の可能性とチャンス最大化に向けた教育政策に取り組むべく、努めなければならないと思う。

**教育長** 策定には、第三者委員会を立ち上げ現行大綱での具体的な方策の実施の有無、その成果等の点検についても検討を始めたところである。

策定では町民の声に傾聴し、対話しながら町民の理解を深めていきたい。

次世代を生き抜く子ども達を育てるため、町民の豊かな人生を支えるべく、先進的で実効性のある教育大綱を策定していく。

木幡ますみ 議員



## 問 駅から南側の地域に誘致を

## 答 誘致活動に継続して力を入れる

**木幡** 町では現在、第三次復興計画を策定中

とのことで、大野駅周辺など下野上地区においては造成工事や施設整備を進め、賑わいを取り戻していくと聞いている。

しかし商店街の大野1区と2区の境から南側については計画が無いとされている。

将来帰還される町民や町の将来のためにもこの場所を整備し、大型商業施設を誘致するべきではないかと考える。町に大型スーパーが出来れば他町からの集客も期待される。

大型スーパーなどの誘致に関しては町と商工会と町に住んでいる若い人たちによる検討委員会を作って進めべきと考える。

**町長** 第三次復興計画を策定しておりその素案の中には、下野上一

団地事業の整備計画を南に拡張する計画は明記されて無い。現段階では今進めている駅前広場や第二期の計画、更に商業施設の南側の取得済みの用地の利活用を具体化していきたいと考えている。

ただし町内に居住されている方々からは、スーパー等の生鮮商品を取り扱う商業施設の町内設置を求められていることは認識しており、大手のスーパーに町内への誘致活動を行うっておりすが未だ前向きな回答は頂いていない実態です。

スーパー等の施設の誘致活動に力を入れて継続し、その場所については引き続き検討していきたい。

### スポーツ施設

## 問 全天候型で整備すべき

## 答 町民の意見を伺い取り組んでいく

**木幡** 最近一年を通じ

て天候の変動が激しくなってきた。その様な中でも子供から高齢者の方々が天候に左右されず、安心してスポーツを楽しめる施設が必要と考えられる。

そこでプールやテニス等ができる様な全天候型の施設を整備したかどうか。

例えば榎葉町のJヴイレッジやスカイアリーナ、相馬市民プールのような施設を整備し町民の方々の交流、健康増進を図って行くべきではないか。大熊町の前大野病院が再び出来るということが決まりました。病院によっては腰の治療でプールの中を歩くということ

も聞いている。

治療と健康、町民の交流のためにも是非作って行くべきと考える。

**町長** 町スポーツ施設

については、震災前は殆どの施設が町内において健康増進や、自分の好きなスポーツに取り組んでいたが現在はそういうところ

までは当然行っていない。先駆けて整備している榎葉のプールや体育館があるもので先ずはその活用してもらって、例えば榎葉町民と大熊町民の使用



だれもが利用できる施設を

千葉 幸生 議員



特定復興再生拠点区域

## 問 一団地以外の土地取得を加速すべき

## 答 需要が見込めるなら用地取得を行っていく

**千葉** 現在、策定中である第3次復興計画の中で、今後10年間の大野駅周辺を含めた特定復興再生拠点区域で、一団地以外の詳細な土地利用計画が残念ながら決まっていない。

町が、再生加速化交付金等の国の財源で事業を実施する場合は、事業完了までは、およそ5年以上の年月が必要となる。つまり、現在計画されていない事業は、令和11年以降に完了となる。

第3次復興計画上、産業施設と連携した土地利用促進エリアとされている民有地および農地の一部を町が取得し民間事業者に貸与または払い下げ、住宅などの建設（宅地造成も含む）をさせてはどうか。民間事業者との協働は、事業完成までの日数を大幅に削減で

き景観上整然とした町並みを実現できるメリットがある。財源を問わずスピード感をもって土地を取得すべきと考える。

また、令和5年度の一般財源はどのくらいあるのか。町長の所見を問う。

**町長** 現在進めている一団地事業の商業施設の不足や宅地分譲のさらなる需要が見込めるようになれば、新たな整備計画を策定し、最適と判断できれば用地取得を行っていく。

公共事業もあるので



大野病院周辺の土地利用計画は

民間事業者と協働した場合のメリット、デメリットを検討しながら今後のまちづくりに活用していく。

一般財源は、今年度予算額では約100億

学び舎ゆめの森

## 問 メタバースに関する特別授業を実施してはどうか

## 答 アナログとデジタルを融合した人材の育成を目指す

※各質問の詳細、再質問は大熊町ホームページの町議会録画中継をご覧ください。

円、令和5年8月末現在で、一般財源として積み立てている基金の残高は、財政調整基金

が約1001億7千万、東日本大震災復興基金が206億5千万円である。

**千葉** メタバースは、「コンピュータの中にも構築された3次元の仮想空間やそのサービスを目指す。」ことである。

利用者はオンライン上に構築された3次元コンピュータグラフィックスの仮想空間にアバターと呼ばれる自分の分身で参加し、様々なサービスを受けることが想定される。

特別授業としてメタバースを活用したコミュニケーション技術を

学んでもらい、将来当たり前とされるメタバースを恐れることなく活用でき、ソフト開発ができる人材を育成する教育環境を作るべきと考える。たとえば、大熊中学校をメタバース上で構築し、その中で同窓会を開催するなど現在の大熊町の実情に合つと考える。教育長の所見を問う。

**教育長** 現在学び舎ゆめの森では、積極的に

ICTを活用して、デジタルをしっかりと使いこなせる児童・生徒の育成を目指している。今後は、プログラミング教育の中でメタバース等も取り入れ、近い将来、日本や世界で必要とされるデジタル人材の育成も目指している。これらをバーチャルと融合させることでアナログとデジタルを融合した人材育成を推進していきたいと考えている。

# いわきおどりを踊ろう！ Best Buddies Okuma

お世話になっているいわき市への感謝を込めて「いわきおどりを踊りたい！」という気持ちのもと、大熊町民や大熊町に関わってくださっている方々など有志で任意団体「Best Buddies Okuma」を立ち上げました。

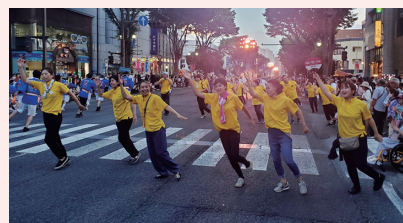
2022年から活動をはじめ、今年もたくさんの方と踊ることができました。

黄色いシャツが目印のBest Buddies Okuma。来年一緒に踊る仲間を募集中です！

Best Buddies Okuma 事務局 橋本智子



Best Buddies Okuma … 大熊の最高の仲間たち



心をひとつに「どん わっせ！」



気分爽快！ 笑顔ほころぶ

## 傍聴に来てください 12月定例会は13日からの予定です

### 編集後記

令和元年4月10日の大川原、中屋敷の避難指示解除に始まり5月7日に会津若松出張所より大川原の新庁舎で業務を開始して4年5ヶ月が経過しました。

現在までに帰町した町民が生活には困らない施設等が完成しましたし、義務教育学校「学び舎ゆめの森」も完成し2学期より園児、児童、生徒が楽しく学んでいます。

また町民による「なつ祭りinおおくま」等のイベントも例年開催され、少しずつですが震災前の生活が戻ってきていると実感します。

議会広報紙でもいろいろいるな町の取り組みを議会目線で取り上げ、町民の皆様にお伝えしてきましたが、今思つと震災初期の大川原地区は荒れ放題の田園風景であり、この地に本当に町が出来るのかと疑心をおぼえたことを思い出し「一時は時代を作る」のだと思う今日この頃です。

広報委員 廣嶋公治

### 広報公聴常任委員会

委員長	佐藤 照彦
副委員長	渡辺 誠
委員	石井 和弘
委員	島原 健二
委員	西山 英壽
委員	阿部 光國
委員	廣嶋 公治
発行責任者	吉岡 健太郎